

平成18年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	寿命と発生を制御するシグナル伝達ネットワーク	研究代表者名	西田 栄介
-------	------------------------	--------	-------

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア 高い
- イ やや高い
- ウ やや低い
- エ 低い

意見：
MAPK を中心としたシグナル研究の第一人者として、生化学的現象と寿命・発生現象とを関連づけたレベルの高い研究を展開中であり、推進する価値は高い。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア 予定以上に進展している
- イ 概ね予定どおり進展している
- ウ やや遅れている
- エ 遅れている

意見：
線虫の寿命制御カスケードの同定、胚発生を制御する新たな Sprouty/ERK シグナル系の発見、小腸分化における RA と ERK のクロストークの発見など、順調に進展している。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア 研究経費
- イ 設 備
- ウ 組 織
- エ そ の 他

意見：

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア 期待以上の成果をあげている
- イ 概ね期待された成果をあげている
- ウ 期待された成果をあげつつある
- エ 期待された成果はあがっていない

意見：
十分な成果をあげている。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

ア () 有機的に連携が保たれている

イ () あまり有機的に連携が保たれていない

ウ (×) その他

意見：
研究分担者はいない。

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

ア (×) 効率的・効果的に使用されている

イ () あまり効率的・効果的に使用されていない

ウ () その他

意見：
研究成果の量と質の両面から、効率的であると判定される。

6 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
×	A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見：

シグナル伝達に関する研究代表者のオリジナルな発想に基づく研究が進行中で、今後の成果に期待がもてる。とくに、寿命とβ-カロチンの関係は興味深く、そのシグナル系についての理解をさらに深めていただきたい。一方、シグナル系の詳細に関する知見を深めるだけでなく、新しい概念を創出するような高インパクトの発見にも挑戦していただきたい。